

## 令和4年度 第3回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和4年12月13日（火） 14時00分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 特別活動室
3. 出席委員 山本忠雄 池谷真也 和田安彦 矢野陵子 室内恵理香
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 小杉幸次（中瀬協働センター） 平井記代美（学校支援ボランティア）
6. 学校支援コーディネーター（委員外） 岡本奈緒
7. 学 校 影山ちか（校長） 鈴木健（教頭） 石島正巳（CS担当教職員）  
岡本奈緒（CSディレクター）
8. 教育委員会 堀田洋一（教育総務課）
9. 傍聴者 なし
10. 協議事項
  - (1) 議長の選出
  - (2) 学校支援ボランティアの活動報告
  - (3) 今後の取り組み
  - (4) 学校の取り組み（生徒の様子）

11. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒

### 12. 会議記録

司会の教頭より、委員総数5名のうち5名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 議長の選出

司会の教頭より、議長を会長にお願いしたい旨を伝え、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

#### (2) 学校支援ボランティアの活動報告

岡本：現在、5名の学校支援ボランティアの方に来ていただいている。事前に担当教諭、CD及びボランティアの3者で「授業確認書」「時間割」を作成の上、打合せを行い授業内容や進め方、子どもたちの様子等をここで共有する。

- \* 「1年生家庭科」…ブックカバーの作成(洋裁)。各クラス2～4回で調整。回数を重ねるうちに、子どもたちからボランティアに話しかけるようになっていく。3学期も継続。
- \* 「3年生書写」 ……席書コンクール提出に合わせ、各クラス1回。朱液で直してもらったものをお手本にして書く子や、「名前を書いて欲しい」と半紙を持ってお願いに来る子も数名。来年は1・2年生にも展開予定。
- \* 「9-5書き初め」…少人数のため、和気あいあいとした雰囲気。子供たちとの距離を意識して丁寧に関わってくださっている。3学期は書写で継続。
- \* 「9組筆ペン」 ……筆ペンの使い方、氏名、挨拶文を練習し絵手紙を作成する。3学期も継続。
- \* 「部活動支援」 ……現在2名の登録。ご都合の範囲内で来ていただいている。卒業式に飾る花の準備等を子どもたちと一緒にやっている。継続。

今回、初めて学校支援ボランティアをお招きしており、至らない点もあったかと思うが、子どもたちと接した感想やご意見ご要望などお聞かせいただきたい。

平井：はじめは誰？という感じだったが、今月に入って「どうすればいい？」「教えて？」「これでいい？」と聞いてくれる子が増えてきた。「良かったね、できたね」と言うと「ありがとうございます」と返してくれて嬉しく思う。とても楽しく来させていただいている。

子どもにかけてはいけない言葉や、気を付ける接し方はあるか。

校長：平井さんらしく、とても良い距離感でやっていただいているのでありがたい。

教頭：配慮を必要とする生徒がいれば、教科担当が事前の打合せで伝えるので素のまま接していただければ大丈夫。

室内委員：学校からの連絡待ちで動いているが、このやり方で良いのか不安はある。今、動き出している状態なので声をかけていただければ引き続き活動していきたい。

池谷委員：発達支援が必要な子が増えていると言われる昨今、本校での取り組みとしてボランティア等、何らかの支援ができないか。

和田委員：上手にボランティアの方たちを活用してさらに増えていけばと願う。同時に、その活動の広報も大切だ。来て下さるボランティアの方への接し方も当然重要だ。

矢野委員：せっかく来ていただいているボランティアの方の様子が学校関係の皆に伝わればと思う。地域の方に支えられていることも保護者も知るべき。どうしてもわが子のことばかりを考えがちだが、地域の方に支えられていることを若い保護者たちにも知ってもらいたい機会ではないか。

校長：通級教室には専門の担当がいるのでそこにボランティアをいれるのはなかなか難しい。来年度から校内適応指導教室が設置され、教室に入れられない子、授業についていけない子たちが入る。そこなら各教科に対してボランティアをいれることも可能ではないか。そこには教員も必ず配置している。

池谷委員：一般の方では不登校や発達支援が必要な子の扱いは難しいのではないか。

校長：不登校になった経緯や背景を知ることが必要。勉強ができない、コミュニケーションがとれない、同世代とは話せないが先生とは話せる子もいる。授業を抜けることに抵抗がある子もいる。しかし、子どもの困り感に学校側は手助けしてあげなければいけない。

山本会長：平井さんの感想の中で、生徒からお礼を言われ嬉しかったとあったが、ボランティアの支援を受けて子どもの立場からの受け止めはどうなのか。

校長：教員にどの部分で支援をしてもらいたいのかを徹底しなければならない。そうすれば教員も助かる。そこは工夫をしなければならない。

教頭：持続可能な活動が理想。1年目としては良いスタートがきれている。これを定着させ、当たり前になっていくことが今後の目標。この活動をさらに広げるといってより持続できるような仕組みづくりをじっくりやるのが第一歩。

室内委員：母が園芸ボランティアに参加しているが、回覧板でCSだよりの募集を見て母から行こうかと言ってきた。今では、子どもたちが声をかけてくれるようになり、今後も参加していきたいとのこと。回覧の影響は大きいと実感する。

山本会長：持続可能な活動をもう少し具体的に教えていただきたい。

教頭：今は一部の教員だけだが、もう少し全体に活動分野を増やしていきたい。部活動においても将来的には地域に部活動が入っていく流れがあり、運営協議会と部活動もつながるのかもしれない。いろいろなことを考えているが、まずは仕組みづくり。学校として、しっかりと計画や募集の仕方を構築し、バランスよく軌道に乗っていかれば良いと思う。

山本会長：園芸部以外に部活動支援は必要とされているのか？

教頭：今はない。小学生は家族のつながりがある。中学生は社会性を身につけなければならない。地域に支えられていることに気付けることが大事。その中学生が大人になった時に地域に返す活動ができるような流れができると良い。

### (3) 今後の取り組み

校長：以前は3年生の保護者と生徒の奉仕活動があったがコロナでなくなった。今年、グリーンマットを塗りなおしたい。指導してくれる方を紹介していただけないか？

山本会長：学校からの要望として校内環境整備にお力頂ける方はいないか、ということ。このような内容をブログ以外でも紙媒体で自治会という組織を上手く使っていただければと思う。

室内委員：仕事の関係で年配の方と多く接するが、今回、回覧でCSだよりの見てくれている方いると実感した。携帯は保護者世代、今回の学校支援ボランティアの活動を載せて発信すればまた広がるのではないか。

矢野委員：少し専門家の立場からお話させていただきたい。発達障害の子が増えているといわれるが、9割以上は定型発達の子。その子たちを地域で支えれば、残り10%の支援が必要な子には先生方が手厚く対応できるようになる。多数派の定型発達の子たちを通常の大人が通常の間わりの中で、普通の学校に普通に来ている子たちは多少きついことを言われても、多少

違うことを言われても消化していく経験も必要で、消化していく力も持っている。そういった子たちに触れることに一般の大人は構える必要はない。発達障害の子に対して当たり前の対応をして、どうにもならないパニックになる子は少ない。そんなに一般の大人が彼らに関わる時に恐れることはない、特別な声掛けも言っただけいけないフレーズもない、怖がらないで関わってもらえばよい。外側の人間が発達支援の子たちに上手く関わらなければ、引き受けなければとなると、そこは専門領域になってくる。そこは先生にお任せし、その他の子たちを地域で支えることができれば役割分担になる。地域の人たちが僕らを支えてくれているという姿を子どもたちが実感できればそれは素敵なことだと思う。

#### (4) 学校の取り組み（生徒の様子）

教頭：前回9月の運営協議会からの3ヶ月は非常に密度の濃い期間だった。学校全体は落ち着いている。ルールを守れず指導が必要な子はいるが、教員の指導に対して反発する子はいない。合唱コンクール、体育祭は2年ぶりに保護者にも見ていただくことができ、無事に終えることができた。部活面でも大活躍で活気のある2学期を過ごしている。12月は学期末に向けて各学年で良い締めくくりができるよう雰囲気作りをしながら過ごしている。ここで、学習面・人間関係が成長していく中で、上手くサポートできるように先生方の経験だけでなく客観的な資料として学校が取り組んでいる「NINO」「Q-U」を紹介する。

池谷委員：「NINO」はいつからやっているのか

校長：今年から。その子が何に対してどの時期からつまづいているのかを教員が理解するべきだということで始めた。三者面談で保護者に結果を渡している。

矢野委員：先生たちの中で、感覚と結果は一致しているのか？

石島：ほぼ一致している。ただ、外から見ただけでは分からない状況もあるため、客観的データも必要。

和田委員：今は学校行事も中止にしていく時代ではない。マスクにより顔が見えない中での関わりは難しさも感じているだろう。しかし、コロナにより新たな発想や、見えてくるものもある。

校長：PTAの方々のご理解を頂きつつ、今できることを止めずにやるしかないと思っている。

山本会長：学校が落ち着いているという報告があり、われわれ委員に対して非常に安心感を与えて頂いた。また、次回の報告に期待感を与えていただいた。

司会より、次回の学校運営協議会は、2月24日(火)13時半～授業参観、14時から運営協議会を開催する旨の連絡をし、会を閉じた。